

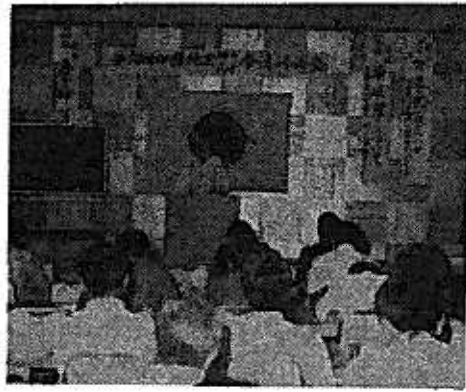


次には日本の日本らしさを推進することであります。一世一元制の法制化、国旗掲揚の促進等、日本の国体を維持する為の運動が必要であり日本の将来のために御社頭からの一声を進めようではありませんか。国内外は不況の嵐が心配されてお

### 第六回 四国地区

#### 神青・氏青合同研修会開催

第六回四国地区へ神青・氏青合同研修会が、八月二十、二十一日の両日真夏の暑い中、三島安久愛媛県神社庁長・大宮四郎愛媛県神社庁監



ります。県下でも倒産企業が相次ぎ精神的不安が募っています。一日も早く安定した経済の復帰が望まれるところです。新しい年への出発に際し、本会への一層の御支援・御協力をお願いし、御挨拶といたします。

事、岡本哲雄愛媛県神社総代会々長宮間孝夫神道青年全国協議会副会長山崎昭八郎氏子青年全国協議会理事岩本徳一国学院大学教授・長曾我部勝伊予豆比古命神社宮司・野口光敏愛媛新聞社常務取締役の来賓・講師を迎えて、神青会員香川十名、高知十名、徳島九名、氏青会員香川五名、高知八名、徳島八名の参加のもと伊予豆比古命神社で開催されました。一日目、正式参拝を終え、開会式そして小休の時間もおしく引き続き本題に入り、岩本徳一教授による「神道の教義について」の講演に入りました。続いて野口光敏講師の「神社界について」の講演、またその間、会員諸氏の「吾が神道観と今後の営み

について」の意見発表が、神青、氏青と発表された。会場の熱気にクーラーもフル回転。

二日目もこの会場の熱気はもちこされ、長曾我部宮司の「吾が神道観」の講演、そして前日に続き、神青・氏青会員の意見発表がくりかえされた。予定時間もはるかにすぎて最終

#### 四国四県親善ソフトボール大会開催

第六回四国地区へ神青・氏青合同研修会終了後、伊予豆比古命神社近くの居相中学校グラウンドにおいて、四国四県親善対抗ソフトボール大会が開催されました。

各チームとも、野球王国四国の名譽に掛けて、試合前の練習には、プレッシャーを感じてか、それとも各チームへの威圧の為か、なかなかのハッスル振りで、中にはユニホームなど統一しているチームもありました。その割には、キャッチボールの時ボールをグラウンドの角まで追い掛けている人を数多く拝見いたしましたゾ。

さて、我が愛媛チームと言います

項目として、岩本教授に今迄の意見発表のまとめを取っていただき意義深き研修会の全日程を終了した。

今回の研修会開催にあたり絶大な御協賛、御尽力を下さいました愛媛県神社庁・伊予豆比古命神社・椿神社氏子青年会の皆様に対して厚く御礼申し上げます。

と、そこはそれ野球発祥の地と自負しておりますだけに、その腕とチームワークの良さで、ユニホームなどに誤魔化されるものかと、多少は僻みっぽく聞えはしましたが、ユニホームでなく技とチームワークと言う声の中、真に各自奇抜な出で立ちでお互はげましつつ試合に望んだのであります。

抽選の結果、我が愛媛チームは香川チームと、徳島チームは高知チームとの対戦と決まり、これまた予戦から北四国大会・南四国大会と高校野球のような取り合わせとなったのであります。ますますナイン一同やる気一杯。

ところがなんと、審判の選手集合合図が出る間際、監督とサインが未定のままなのに気付き、ナイン一同意さかたまでいきましたが急拠野口監督を決め、最も肝心なサインは決める時間もなく、その場、その時と未定のままプレイボール……………。

我がチームは先行でしたので一回味、調子すこぶる良く、矢野、長曾我部、大野、清家、とヒットを打ち一挙三点を取るといふ好調子で出たのであります。さてその裏、我がチームは相手チームに何点取られたと思いますか、ナイショ!!

二回の表、一挙逆点とナイン一同の期待と監督の諦めにちかいバ声を背にバッターボックスに立つのではあります、ああいうピッチャーを軟式投手と言うのでしょうか。目にもとまらぬ速い球と思えば、今にも止まりそうな球を次々と自由に投げて来るからたまりません。バッターボックスに立つバッターは次から次とただ空を切るばかり、監督の声はますます大きくなり、選手交替も二回の裏で全員出場、おまけに真夏の太陽は頭上でキラキラ、三十分守って一分攻める我が攻撃の時間だからジュースすら飲むことができない。

この後の三回裏以後の結果は参加

選手諸氏に聞いて下さい。あえて点数はひかえさせていただきます。あれほど第六号会報にオフトレの記事を記載していたのになさけないやらつらいやら。

ただただ、試合終了後ナイン一同

「せめて来年はユニホームを作ろうぜ」と話して花が咲いていました。なお優勝チームは香川県でした。おめでとうございます。蛇足、香川チームはユニホームを着用していましたゾ!!

## 第二回神青会研修旅行を終えて

阿沼美神社

宮司 田内逸和

霜月の風の中、フェリーは柳井港へと走る。暗闇の険しい山路を、今度はトラック野郎と交わりながら突走る。

早朝、津和野に着き、日本五大稲荷の社である太鼓谷稲成神社々務所で、温かいおもてなしを受ける。その間、通り雨が罪穢を洗い落とし、てくれるかのように激しく屋根を打つ。正式参拝を終え、冷たい外気にふれると身が引締る。御社殿の上空に虹が、それも、もう一筋重なっているのを見ることができた。御祭神が私共一行を歓迎くださったのであるうか。心爽やかな気分が萩に着くNHK大河ドラマでも知る、松蔭神社に参拝。丁度ガイド嬢の説明に飛び入りで傾聴、松蔭処刑の報に怒る

塾生の刀傷の生々しさを目の当りにし、すばらしい師を持た彼等が羨ましい限りである。あいにく、雨雲が立込め残念ながら萩市内その他の見学ができなかった。

翌日は予定を変更し、秋芳洞へ行くことができた。何もかも始めてときている私に、これ又すばらしい驚きが待っていた。カルスト特有の眺めは初めてとは思えない懐かしさがあったが、唯、大自然、神々の偉大さを痛感するばかりである。

次は赤間神社へ向かう、車中はさながら亀の背に乗った浦島太郎の気分である。竜宮城の御神門をくぐりふと外に出ると白髪になっているのは……………。

職員の方々のお話を伺い、安徳天

皇をお慰めする心配りが、御社殿の設計にありありと感じられた。一部造営中であつたので落成のあかつきには、再び全景を拝みたいものであります。

これで三泊四日の旅程を終了したのであるが、ご計画いただいた会長副会長様、又疲れをいとわず運転いただいた方々にお礼申し上げますと共に、次回の研修旅行を会員諸氏の皆様と心待ちにしたいと思います。

その際は是非多数のご参加を願いたいものです。

有意義だった研修旅行の余韻を胸に、会員の皆様と共に、午歳を飛躍したいと思っております。





研修旅行収支決算書

収入の部	
1.参加費	28,000円×7人 196,000
2.参加者寄附金	7,000円×7人 49,000
3.特別寄附金	3,760円 3,760
計	248,760
支出の部	
1.玉串料	10,000
2.運賃	65,500
3.自動車お礼	18,000円×2台 36,000
4.有料道路代	2,900
5.ガソリン代	日野、池内氏より寄附
6.宿泊料	7,000円×7人 49,000
7.食事代	5,630
8.懇親会費	67,660
9.諸雑費	12,070
計	248,760
差引残額	0

第二回

四国地区神青楔成大会

第二回四国地区神青楔成会が九月三・四日の二日間の両日、当番県の徳島県神青の主催により、徳島県三好郡三野町、武大神社（芝藤殿宮司）で開催されました。

道彦・講師に藤本幾久先生（龍王神社宮司）を迎え、愛媛県から三名の参加により、総計十六名のもと、吉野川での楔、その同岸に鎮座します武大神社での鎮魂と二日間にわたりとりおこなわれ修予証が参加者に

授与されました。当日はあいにくの天候ではありましたが、道彦の御指導のもと一人のけが人もなく参加者全員無事修練を終えました。また講師自身の楔練成のご体験と必要性を講話下さいました。

各ブロック会報告

現在、教化委員会を中心に進められている各ブロック会の開催が次の日程で開催されました。今後とも各ブロックの活発なる開催、促進を願います。

十二月三日

南予ブロック会 参加者10名

十二月十六日

東予ブロック会 参加者9名

(於 今治)

十二月二十三日

中予ブロック会 参加者18名

(於 松山)

お願い

昭和五十三年度の神青会員年会費四千円未納の会員の方は至急会計迄納入をお願いします。

詳しくは

八幡浜市清水町一四二

清家貞宏宛まで

☎〇八九三・二〇二一

お知らせ

新年互礼会を左記の通り開催致しますので、万障お繰合せの上、御出席賜ります様御願申し上げます。

記

一、日時 昭和五十三年正月二十二日(日)

午後一時

一、場所 西条市西田 石鎚神社

一、懇親会費 金四千円也

一、神道講話 有り 講師未定

編集後記

あけましておめでとうございます。近年にない暖かい元旦でした。境内のかがり火に暖を取る人もほとんどなく、元旦らしからぬ元旦でありました。▼編集後記を書き始めて、やっと三編目、毎回とはと困るのは1.原稿不足、特に「私の近況」の原稿。

2.編集者としては、東・中・南予の名簿より均一に抜粋し原稿依頼のハガキを出しているのです。

3.毎回、毎回電話での催促、それでも切まで何の音信もなし、今回は正月の混雑で電話もしなかったら返信ゼロ!!▼別に芥川賞を取るような原稿をと願っていないのですから皆様の会報として気軽に投稿願います。▼しかしこの冬は世の中の不景気と反対に暖かいですね。去年の秋に植えたチューリップがこの暖かさにもう芽を出し始めました。しかしこの二、三日の寒さに、ほんの少し土から出した芽がしもやけのように赤くなってじっと耐えています。草木の春はもうすぐ。世間の春も一日も早く来て欲しいものです。

池内